

大学生

×

市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

市内小・中学校の臨時休業により、学習に不安を感じている児童・生徒の学習支援を行う鶴つ子土曜塾。
支援を担っている大学生と学習指導員の皆さんにインタビューを行いました。



鶴つ子土曜塾は、新型コロナウイルスの影響で市内小・中学校の臨時休業が続き、学習に不安を感じている児童・生徒に対して不安に寄り添いながら、基礎学力の定着・学習意欲の向上を図るため、土曜日に各小・中学校において実施されています。
また、コロナ禍の影響を受けている地域の大学生を支援員として雇用することで、大学生の生活支援と将来の職業選択に役立ててもらうことを期待した事業となっています。
(上の写真：大学生の城さん・中村さん・吉田さん・岩さん、学習指導員の須山さん)

●コロナ禍での学生生活

オンライン授業が中心で、4月に入学してから現在（令和2年10月31日）までの間に3日しか登校していません。帰省して受講する友人もいます。

4年生の友人が就職活動をするのができず、困っています。

●応募のきっかけ

教員を目指していますが、コロナ禍で教育実習を受け入れられなかったことが難しくなり、子どもに勉強を教える機会が得られると思い、応募しました。

●感想・やりがいについて

楽しかったと言ってくれる児童・生徒が多いです。分からないことが重なり勉強が嫌になっただけですが、分かるようになれば、前向きになれると思います。

できる・分かることで自分に自信を持つことができ、楽しく勉強できているようです。

●投票に行っています

18歳から選挙権があるため、投票に行っています。インターネットで政策を調べたり、ポスターなどの顔写真を見て、雰囲気や人となりを想像して投票しました。



御協力いただいた皆様とインタビューを行った議会報編集委員会

●市議会議員のイメージ

議員がどういったところで自分に関係するかわからず、議員の方と接点もなかったため、イメージがわきませんでした。
今回の企画を通じて議員の役割を理解でき、また、直接お話ししたこと、身近で温かいイメージになりました。

●まちを元気にするために

小・中学校で「鶴ヶ島を良くするために」といったテーマで勉強するのはどうでしょうか。学校で勉強すると家庭などを通じて広く伝わると思います。

郷土のことをもっと掘り下げてアピールして欲しいです。つるごんを活用した伝統行事のPRなどができるとう面白いですね。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集 後記

コロナ禍で不安を感じることが多い中、子どもたちは私たちに明るい未来を感じさせてくれます。学校がお休みの土曜日の教室、そこには鶴つ子土曜塾で勉強に取り組む子どもたちの姿がありました。
真剣な眼差しで黙々と問題を解く子どもたち。その子どもたちを優しく見守り、支援する大学生の皆さん。コロナに負けない若い力が私たちに勇気をくれました。
未来の宝である子どもたちが夢と希望を持てる社会を創って行かなければと決意を新たにしました。
(小)

(議会報編集委員会)

委員長	大野 洋子
副委員長	出雲 敏太郎
委員	山中 基充
委員	小林 ひとみ
委員	太田 忠芳
委員	石塚 節子
委員	内野 嘉広
委員	持田 靖明